

# 風邪の妄想

野口幹夫

10月末 急に寒くなった日 風邪をひいてしまった。一日ぼんやり寝ていたが、だるさは抜けない。そのうち微熱ながら発熱してきた。咳痰がしっこい。背中 of 筋肉も痛む。久しぶりの風邪引きだ。

うとうとしながら妄想が始まった。KOZOOM サロン 11月のテーマが頭から消えなかったのだ。米寿の健康、病気、終の棲家が頭を巡る。

どこかからのささやきが聞こえる

「この風邪引きが引き金になって、この世から おさらばになるかもしれないぞ。未練はないか」

私は答える

「未練はさらさらしないよ。いつでもこの世のいのち閉じてもいいよ。その先が楽しみだからね。そこは5次元の目でこの世界を見ることができのだから。今外国で活躍している孫たちをそっと邪魔しないようにそばから見ることもできるのだね。それがすごく楽しみだ。」



更にどこかからのささやきが聞こえる

「ではこの家にも未練はないな、わが身より目先の問題だぞ」

私は答える

「むろんわが身以上に未練はない。だから2年前からその後の移住先を探し回っているのだ。沢山見た中で特徴あったのは、二宮にオペラガーデンという高サ住があったな、そこは名前の通り毎週オペラ歌手が演奏するのを聞けるそうで



夢みただった。ただちょっと遠いしね。なぜか夕食代が高かったね。まだここというところはないね。

ただ2年探してすべての高齢者住宅に共通していることがあったね。それはどこでも部屋から出るとただ長い廊下だということだ。我が家は部屋から出ると庭になる。

先週この庭をいつもの庭師が来て剪定整理をして行ってくれた。しばらく雑談をした。その庭師はまだ60代だ。彼はこぼしていた。「最近仕事が減った。このままではやっていけない。頼んでくれるばあさん達は庭のある家だが、どんどん死んでね。家は取り壊して、若い世代が家を持つと2軒は立って庭は無くなる。仕事は減る一方だよ。」と。

思い返してみれば我が家も築 45 年。ささやかな 45 坪の家だった。先輩たちは大体 100 坪だったのだ。しかし狭いながらも、庭に木も植えた。何よりこの庭で夏 5 人の孫がプールではしゃいだのだ。今みな独立



しているが、そんな幼児だったその頃のプールがこの庭の記憶なのだ。

しばらくはこの庭師の仕事無くさないでおこう。いのちと競争だ。

でも そのうち介護付きホームに入れてもらわなければならない日は来る、その予感がするころに、また調査再開だ。その時は太田さんが送ってくれた週刊ダイヤモンドの記事を参考にしよう。

「米寿の健康、病気、終の棲家」 この三題嚙のお粗末 オチはない。

オチないでまた元気に 100 歳を目指そう。